

市議会 だより



2018 年 11 月 1 日発行

発行 仙北市議会
編集 仙北市議会・
広報編集
特別委員会



新・秋田の行事in仙北2018
仙北市角館町で開催 10/6(土)
鹿角市花輪祭の屋台行事

9月定例会	P2
予算常任委員会	P3~4
一般質問	P5~12
総務文教常任委員会	P13
市民福祉常任委員会	P14
産業建設常任委員会	P15
いきいきひろば・控室・ 編集後記	P16



— 9 月定例会 —

平成30年度一般会計補正予算

補正額 1億9,890万円を可決 累計201億761万円に

給食センター建設費**1億2,876万円**は、実施設計未完了につき減額修正される

第5回定例会が8月30日から9月28日までの30日間の会期で開催され、平成30年度一般会計補正予算案（第4号）、仙北市印鑑条例の一部を改正する条例、平成29年度一般・特別会計決算認定議案など計20件が審議されました。

一般会計補正予算は、予算常任委員会で総合給食センターの実施設計が未完了のため、設計完成後の精査が必要として、給食センター建設費の内、平成30年度分の予算額、1億2,876万円を減額した修正案が提出され、全会一致で可決されました。また、会期最終日には、西木庁舎の暖房用ボイラーが故障し、老朽化で修理不能の為、FF式ストーブを導入する費用3,289万円の追加提案が上程され可決。そして、平成29年度一般・特別会計決算は慎重審査の結果認定されました。合わせて請願1件、意見書2件も可決されております。

10月16日に第6回臨時会が開かれ、総合給食センター建設事業費1億2,600万9千円の補正予算が提出され、2名の賛成討論の後、全会一致で可決されました。（詳細は3ページ）

可決・承認
された議案

- ◇平成30年度仙北市一般会計補正予算（第4号）…給食センター建設費を除く
- ◇平成30年度仙北市一般会計補正予算（第5号）
- ◇平成30年度仙北市集中管理特別会計補正予算（第1号）
- ◇平成30年度仙北市国民健康保険特別会計補正予算（第1号）
- ◇仙北市印鑑条例の一部を改正する条例制定
- ◇大曲仙北広域市町村圏組合の共同処理する事務の変更及び大曲仙北広域市町村圏組合規約の一部変更について
- ◇平成29年度仙北市一般会計歳入歳出決算認定について
- ◇平成29年度仙北市集中管理・下水道・集落排水・浄化槽事業特別会計歳入歳出決算認定

- ◇平成29年度仙北市国民健康保険・後期高齢者医療・介護保険特別会計歳入歳出決算認定
- ◇平成29年度仙北市生保内・田沢・雲沢財産区特別会計歳入歳出決算認定
- ◇平成29年度病院事業会計決算認定
- ◇平成29年度仙北市温泉・水道事業会計決算認定
- 請願 市道羽根ヶ台線及び神代岡崎線（一部）を二車線規格に改良を求める請願
- 意見書 地方消費者行政に対する財政支援（交付金等）の継続・拡充を求める意見書
消費税10%引き上げ中止を求める意見書

議決結果/議員賛否 平成30年 第5回 仙北市議会定例会(招集日:8/31 最終日:9/28)

凡例：賛→賛成、反→反対 退→退席 欠→欠席（議長は法律で定めるケース以外では表決をしないことになっています）

議案番号	会派及び氏名 件 名	議決月日	議決結果	蒼生会										公明党	共産党	党及び会派に 属しない議員					
				黒 沢 龍 己	小 林 幸 悦	高 橋 豪	田 口 寿 宣	八 柳 良 太 郎	真 崎 寿 浩	高 橋 輝 彦	武 藤 義 彦	門 脇 晃 幸	熊 谷 一 夫			平 岡 裕 子	小 木 田 隆	阿 部 則 比 古	荒 木 田 俊 一	伊 藤 邦 彦	高 久 昭 二
議案第75号	仙北市印鑑条例の一部を改正する条例制定について	9/28	可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	賛
議案第78号	平成30年度仙北市国民健康保険特別会計補正予算（第1号）	9/28	可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	賛
議案第79号	平成29年度仙北市一般会計歳入歳出決算認定について	9/28	認定	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	賛	賛	賛	賛	反	賛
議案第84号	平成29年度仙北市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について	9/28	認定	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	賛	賛	賛	賛	反	賛
議案第94号	平成30年度仙北市一般会計補正予算（第5号）	9/28	可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	賛
議員提出議案第6号	意見書の提出について（地方消費者行政に対する財政支援（交付金等）の継続・拡充を求める意見書）	9/28	可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反
議員提出議案第7号	意見書の提出について（消費税増税10%引き上げ中止を求める意見書）	9/28	可決	賛	反	賛	賛	賛	反	賛	賛	賛	反	賛	賛	賛	賛	反	反	賛	反

※全会一致で可決された議案については議員賛否を掲載しておりません。

本会議・予算常任委員会 9月定例会で審議された補正予算

主な内容	公共施設等マネジメント事業費	1,268万円	旧市立角館総合病院の解体設計費 アスベストや土壌調査も実施
	農業IoT・水素利用による産業創造事業費	1,250万円	農業分野でのIoT活用と玉川温泉での水素生成実験
	AKITA スノーリゾート推進事業費	542万円	外国人スキー客の誘客事業
	小学校諸工事費	1,348万円	神代小の体育館漏水修理をはじめ各小学校施設の修繕費
	総合給食センター建設事業費	1億2,890万円	総合給食センターの30年度分の建設費（総額約12億8,000万円）
	本庁舎維持管理費	3,289万円	西木庁舎のボイラーが老朽化し使用不可能となったため、FF式ストーブへ更新する費用

スキー場への外国人客誘致 受け入れ態勢は大丈夫か？
質問 AKITA スノーリゾート推進事業では、本市スキー場への外国人スキー客誘致を図ることを目的としているが、そもそも受け入れ側における多言語化や外国語での接客など態勢は万全なのか？
答弁 1～2月にかけて韓国や台湾からのツアー客に対し、仙台空港と田沢湖スキー場エリアを結ぶ直行バスを20本程度運行する予定である。スキーの他、様々な体験プログラムを開発し滞在時間と消費額の増につなげたい。多言語標記については、一部対応済だが全体的に弱い。ため、早急に対応したい。また、英語や韓国語を話せるインストラクターはいるが、今後人材確保と育成を進めたい。

農業IoT・水素利用による産業創造事業 内容はいかに？
質問 国の地方創生推進交付金事業での取り組みとなるが、具体的な内容は？
答弁 農業IoT関連事業は、センサー技術の活用による農業IoTの導入に向けた農業者向け説明会開催と、農業IoTの実証実験を行う。また、水素利用に関しては、東北大学と連携し玉川温泉での水素生成・発電実験を行い、実験工場の製作につなげる予定としている。将来、災害時の応急電源やドローンバッテリーなどへの活用を期待している。

ここが知りたい
議論のポイント
平成30年度補正予算 主な質疑

総合給食センター建設費 1億2,876万円

実施設計未完了のため 全会一致で減額修正

9月定例会には、平成32年度からの運用を予定している総合給食センターの建設費予算が計上されました。

総務文教常任委員会の審査を経て、予算常任委員会に審査内容が報告されましたが、議案上程や委員会審査の段階ではまだ実施設計が完了していません。各委員からは、「設計完了後、教育委員会の完成検査を経て、誤りや違算がないことを慎重に確認した上で予算を上程すべきだ」との意見が相次ぎました。

その後、総務文教委員会の委員から総合給食センター建設費1億2,876万円を一時凍結するための減額修正案が提出され、予算委員会ではこれを全会一致で可決しています。

今後は、実施設計の完了と市教育委員会での完成検査等を待つて再び予算が審査される予定です。

実施設計完了後
建設費が再提案されることに

10月16日臨時議会

総合給食センター実施設計完了
完成検査を終え建設費が再度提案される

9月定例会で実施設計が未完了のため議会によって減額修正された新総合給食センター建設費について、この程実施設計が完了し、市教育委員会においてその完成検査を行った結果、設計内容に違算や誤りがないことが確認されたため、10月16日臨時議会が開催され、改めて建設費予算が審議されました。

予算額は工事内容や厨房設備の見直しにより、前回より約215万円少ない1億2,660万円（平成30年度分）で、来年度分も合わせた全体の建設費も12億5,772万円と2,158万円減少しています。市議会では慎重審査の結果、これを可決し今後、平成32年春の運用開始に向けて建設工事が進むこととなりました。

本会議・予算常任委員会 平成29年度決算が審査される

9月定例会では平成29年度の決算についても審査されました。各常任委員会での分科会審査を経て、予算常任委員会と本会議において各決算が認定されています。

平成29年度 一般会計決算額

① 歳入総額 208 億 1,768 万円 ② 歳出総額 199 億 3,232 万円 ① - ② 収支 8 億 8,536 万円

平成29年度一般会計・特別会計決算収支状況

(単位：円)

区分	歳入 ①	歳出 ②	形式収支 ③ (① - ②)	翌年度に繰り越すべき財源 ④	実質収支 ⑤ (③ - ④) 下段前年度	単年度収支
一般会計	20,817,685,964	19,932,323,307	885,362,657	107,055,000	778,307,657 266,794,615	511,513,042
特別会計	9,612,447,512	9,335,449,601	276,997,911	701,000	276,296,911 254,208,422	22,088,489
内 訳	集中管理	3,616,384,473	0	0	0 0	0
	下水道事業	753,459,812	640,881	551,000	89,881 86,394	3,487
	集落排水事業	376,820,811	87,155	0	87,155 95,881	-8,726
	浄化槽事業	92,965,399	55,771	0	55,771 56,314	-543
	国民健康保険事業勘定	3,807,075,968	230,204,371	0	230,204,371 208,334,802	21,869,569
	国民健康保険田沢診療施設	21,645,220	48,990	0	48,990 43,973	5,017
	国民健康保険神代診療施設	81,860,536	124,264	0	124,264 56,347	67,917
	後期高齢者医療	300,089,814	513,908	0	513,908 220,400	293,508
	介護保険	423,148,727	378,278	0	378,278 10,497,951	-10,119,673
	生保内財産区	85,589,158	27,244,934	0	27,244,934 21,165,753	6,079,181
	田沢財産区	44,732,220	15,648,222	150,000	15,498,222 10,620,060	4,878,162
	雲沢財産区	8,675,374	2,051,137	0	2,051,137 3,030,547	-979,410
総 計	30,430,133,476	29,267,772,908	1,162,360,568	107,756,000	1,054,604,568 521,003,037	533,601,531

答弁 平成29年度にお

ける待機児童発生数は10名で、その内2名は市の補助制度により、市内ボランティア団体による託児サービスを利用した。残りの8名は在宅での保育を選択されたため、翌年度優先して入園できるように配慮した。また、病児保育については、市立角館総合病院での実施を検討したが、今のところ専用スペースの確保等課題も多く大変厳しい。今後そうした課題を精査し早期に開設できるように進めて行く。

市税の滞納とその対応
質問 公平性を担保するために法的な手続きに基づき徴収を強化するべきではないのか？
特に入湯税については温泉施設が入浴客から預かっているもので、側からの未納が発生するのはおかしいのではないか。

答弁 入湯税は各施設からの毎月の申告により税額が決定することになってはいるが、申告納税が遅れる施設もある。電話や訪問により対応している。平成29年度は未納額ゼロとなっているが、過去の滞納については引き続き努力し徴収する。

平成29年度 一般会計決算 予算委員会の質疑から

答弁 平成29年度にお

ける待機児童発生数は10名で、その内2名は市の補助制度により、市内ボランティア団体による託児サービスを利用した。残りの8名は在宅での保育を選択されたため、翌年度優先して入園できるように配慮した。また、病児保育については、市立角館総合病院での実施を検討したが、今のところ専用スペースの確保等課題も多く大変厳しい。今後そうした課題を精査し早期に開設できるように進めて行く。

温泉を活用したヘルスケア事業の効果は
質問 市内の温泉施設で行っているヘルスケア推進事業の効果について伺う。

答弁 疲労ストレス測定器を導入して温泉入浴による効果を測定しているが、今のところ利用実績は少ない。今後は測定器を市民の方々にしっかりと活用して頂けるよう努力しデータの蓄積を図って行きたい。

ける待機児童発生数は10名で、その内2名は市の補助制度により、市内ボランティア団体による託児サービスを利用した。残りの8名は在宅での保育を選択されたため、翌年度優先して入園できるように配慮した。また、病児保育については、市立角館総合病院での実施を検討したが、今のところ専用スペースの確保等課題も多く大変厳しい。今後そうした課題を精査し早期に開設できるように進めて行く。

財務状態硬直化の解消策は。

蒼生会 門脇 晃 幸 議員

市長 歳入を高め歳出抑制のため事業を厳選していく。

市の裁量による執行予算の増額を

質問 第2次総合計画の3年目である平成30年度の予算書を見ると、生活者に寄り添った施策がなされていると感じるが、近年頻繁に発生している自然災害等に迅速かつ臨機応変に対応できる市の裁量により執行できる予算枠をより多く確保することが必要ではないか。

答弁 予算書は市の一年間の計画書であり、基本的に市の裁量によるものである。地域振興事業費や再災害防止対策事業費などの新たな政策的経費も盛り込み、内政重視型の積極予算としている。

財政状態硬直化の解消策と今後の財源確保の考えは

質問 市長は一期目に地方債を40億円減少させ、基金積立ては40億円を超えるなど財務体質強化に取り組んでいる。さらに好転していくことを期待したが、経常収支比率を見ると、平成25年の88・1%から年々悪化し平成29年度は95%となった。金額に換算す

ると平成26年度からの累計で約20億円が自由度を失っている。まさに財政が硬直化していることを表している。この解消策をどう考えているのか。

答弁 確かに、平成29年度決算の経常収支比率が高くなったことは財政が硬直化したといえる。平成28年度から普通交付税が縮減されたことも要因だが、解消策は歳入を高めて歳出を抑制することだ。市税等の徴収率の向上や不要な市有財産を処分し、事務作業等を精査するなど可能な限り無駄を省き、事業は厳選していく。

質問 第2次総合計画の実施計画を見ると、今後は大規模

事業が多く、一般財源の歳出が平成30年度と比較して平成31年度が9億円、平成32年度が15億円も増額する計画である。財政調整基金も枯渇してしまうと推測するが、この財源確保をどうするのか。

答弁 第2次総合計画の実施計画は、平成30年5月時点のものであり、まだ国、県の補助金等の歳入の動向や事業全体の優先度を精査する前の段階であるため、記載した一般財源をそのまま拠出するわけではない。各年度の予算編成時に事業を精査し、歳出を抑制しつつ歳入を確保する努力をして基金が枯渇しない予算編成をしていく。

平成33年度の財政見通しはどうか

質問 今後は普通交付税もさらに減少することが予想される。新角館庁舎や総合給食センター建設などを控え厳しい財政運営となるが、市長3期目の最後の年である平成33年度の青写真をどう描いているのか。

答弁 歳入・歳出両面から対策を続けて健全な財政状況を維持し、あるべき姿に向けて果敢に挑戦していく。平成33年の当初予算編成後も財政的な余力を残すように計画していく。将来を確かなものにするため、今をしっかりと生き、毎日を精進する。

(高橋輝彦記)



■歳入を高めるため奮闘する収納推進課



■市の財政は非常に厳しい健全な運営を求める

通学路沿いの危険なブロック塀への対応は。

蒼生会 高橋 豪 議員

市長

個人所有のものは、市による撤去費用支援も考えなければならない。



■老朽化が進む市営住宅

市有財産の有効活用を

質問 旧角館総合病院は全て解体し、用地売却を含めて複数案検討しているというが、具体的内容は。

答弁 駐車場整備、公共施設用地等も検討したが、最終的には用地売却の方針に至った。建物解体後、まちづくりに資する土地の活用を念頭に公募型プロポーザル方式での売却も検討している。

質問 老朽化した市営住宅は条件が整い次第解体するとしているが、その跡地活用と新たな市営住宅の建設は。

答弁 解体後は、更地となつ

た時点で売却を考えている。新規の市営住宅については、現状の応募率や入居率を踏まえて、新たな建設は行わない考えである。

質問 災害時の避難所として利用している旧学校施設や、老朽化した施設の耐震化は。

答弁 仙北市耐震改修計画により、既存建物等の耐震改修を計画的に実施しているが、避難所以外の建物も含め、今年度耐震改修計画を見直ししている。

総合体育館整備計画の実現性はいかに

質問 具体的にどのような体育館建設を目指しているのか。

答弁 (教育長) 市民の生涯スポーツ活動や健康づくりの拠点としての役割、大規模なスポーツ大会や文化大会、各種イベント開催のほか災害時の防災拠点となる施設を目指している。計画では、メインアリーナはバスケット2面、バトミントン8面等、観客席は固定席で900席を確保する。

質問 現実問題として約50億円もの事業を本当に進める気があるのか。また国の交付率

も低調な中で財源確保はどうするのか。

答弁 市民の方々の要望に応えるため、計画の実現に向けた道筋を立てていくことが重要であると考えている。財源確保は厳しいが、今後も徹底的に調査し、可能な財源の導入、もしくは財源を担保していただけの団体との連携などについて、議会と情報共有させて頂きたい。

通学路の安全確保を

質問 市内小・中学校に設置されている構築物や、通学路の危険なブロック塀等の状況確認はしているか。

答弁 (教育長) 市内7小学校の通学路合同点検と、小・中学校敷地内の構造物点検を実施した。通学路で危険が感じられるブロック塀3ヶ所については、緊急的にルート変更で対応している。角館小敷地内1ヶ所については年内に改修する。

質問 過去の地震を踏まえ、老朽化したブロック塀等の撤去費を一部助成している自治体もあるが。



■通学路合同点検の様子

答弁 所有者のご理解と、撤去等の協力依頼が第一であるが、安全確保のためには、市で応援することも考えなければならぬ。

質問 危険箇所は、学校関係や保護者には情報提供されているが、一般市民にも公表すべきでは。

答弁 (教育長) ホームページを通じて、市民に公表できるように準備を進めている。民間ブロック塀についても、お知らせできるように所有者と粘り強く交渉したい。

(武藤義彦記)

災害発生時の住民対応の充実を

小木田 隆 議員

市長 必要に応じて対応する

地元業者への 優先発注を

質問 給食の食材調達は地元業者を優先的に利用しているのか。また、市の発注工事は地元優先で行っているのか、これからもその考えで進めるのか。

答弁 これまでも市内優先で、さまざまな物品や業務等を発注してきた。市が発注する建設工事は、その施工が特殊な事由により市内業者ではできない場合を除いて、入札参加資格に「主たる事業所の所在地が仙北市内」という要件をつけた上で、条件付き一般競争入札を行っている。適正な競争原理のもと、公平性を確保した上で、地元企業の育成及び地域経済の活性化を図ることを目的に、地元優先の発注を今後も継続したい。

避難所の充実を

質問 避難場所の数と装備品の内容について問う。

また、発電機、冷暖房の有無についてはどうか。加えて、給水車の配置は万全なのか。

答弁 仙北市地域防災計画で指定している市内の避難所の数は、田沢湖地区が15施設、

角館地区が27施設、西木地区が15施設である。

このうち発電機の配置は、田沢出張所、神代出張所、田沢湖公民館、角館公民館、西木公民館、松木内公民館、紙風船館にそれぞれ1台、角館庁舎に2台の配置の他、角館水防倉庫、角館東地区公民館倉庫に合わせて7台の発電機を備えている。合わせて、上水道関係の給配水施設にも発

電機を設置している。冷房設備は西木総合開発センターなど、一部の施設に設置されているだけではあるが、大規模災害時や多数の市民等が避難する場合、必要に応じてリース対応する。

現在保有している給水車の容量は千リットル規模であるが、容量が少ないため、二千リットル規模の導入を検討する。

質問 水害時に、冠水などで避難場所までの避難が困難な場合も想定される。その対応は万全なのか。

答弁 避難施設自体が被災、あるいはその施設に到達できない状況が想定される場合ものについては、避難箇所の移設も検討しなければならぬ。現在、対応を検討している。

(真崎寿浩記)



■避難所に指定されている大曲養護学校せんぼく校



■市保有の給水車

道路の安全解決にスマホの投稿アプリシステム運用を。

公明党 熊谷一夫 議員



市長

地域センターの事業と連動し、災害発生時の対応も視野に導入を検討したい。

投稿アプリで道路の安全解決

質問 道路の穴ぼこ等に、スマホのアプリ使用で、いつでも誰でも投稿でき、市も迅速対応できるシステムの運用を提案する。

答弁 市民との共同による画期的なアプリのようである。地域センターの事業と連動し、災害発生時の対応も視野に導入を検討したい。

自主防災組織の推進と「みんなで逃げる」防災づくりを

質問 ①自主防災組織の現状と結成の目標・市内ハザードマップの認識度と地域・町内のマップ作りの現状は②逃げない人を逃がす方策、要配慮者をどう逃がすか③自主防災組織育成指導者研修会の実施は④命を守るために「みんなで逃げる」各地区毎の訓練予定はあるか⑤早めの避難勧告・避難指示の体制について伺う。

答弁 ①339団体の目標だが現在は33団体である。又、災害発生時に65%がハザードマップを認識していなかったとのデータもある。各町内の

マップ作りを進め、自主防災組織結成の機運を高めるきっかけにしていく。



■スマホアプリで道路の安全対策を（湯沢市のパンフ）

②個人情報保護法が壁になって、「法を守って人を守れず」の課題が行政にある。要配慮者は、行政と地域住民が協力し合いながら避難させる。

③市内で4回開催し297名参加。平成28年以降は秋田市開催で約10名参加している。

④3地区を輪番で避難訓練を行う事を検討し、訓練を定期化する事にも努める。

⑤空振りも恐れず、早めの勧告・指示を出せる体制を取っている。

市の公文書管理の徹底を

質問 公文書に関する意識と取扱いの現状認識は。

答弁 知的資源として重要で正確・迅速に取扱い、市民の利用に役立つよう適切に管理するという認識である。

質問 毎年増える行政文書の保管・管理はどうしているか。

答弁 各庁舎等で保管・管理しているが、永年保存の公文

書が増え、大変難儀している。

質問 文書事務取扱規程第34条文書の保存期間ごとの第1種から第5種までの同一管理か。

答弁 収納庫不足で、保存期間ごとに区分・整理するスペースがなく数箇所に分けて保存している。

質問 廃校舎を活用しての公文書館の必要性と公文書管理条例設置の考えは。

答弁 廃校舎活用や田沢湖・西木庁舎の整備も含め協議を活発化させていきたい。条例設置については情報収集をしている。

障がい者雇用の実態を問う

質問 当市の障がい者雇用人数と法定雇用率に対しての過不足は。

答弁 現行の雇用人数は12人

で、法定2.5%以上に対して2.91%と充足している。

クニマス未来館に多言語標記の説明を

質問 訪日外国人観光客への多言語表記や英語の案内表示等をすべきと思うがどうか。

答弁 クニマスの冊子の英訳版に4月から取り組み、学術的なこともあり中坊教授に監修をお願いしている。英訳完成後は、館内で多言語に対応するシステム導入をしていきたい。

たつこ像前の駐車場整備はいつ

質問 たつこ像を訪れた方の路上駐車をなくす抜本的な解決策を示していただきたい。

答弁 ローズパークホテルの駐車場を繁忙期の75日間、約80台分お借りしているが観光客に周知されていない。又、県が新潟県公園地公衆トイレ施設整備工事を実施中です。完成しても駐車スペースは十分でない。今後は表示看板の設置を含め、ホテルや地元の方々と協議をしていく。

（熊谷一夫記）

市内小中学校へエアコン設置を求める。

日本共産党 平岡 裕子 議員



市長 今後の国の対応にも期待し順次計画して進める。

市内小中学校へのエアコン設置を

質問 市内小中学校の教室にエアコン設置を求める。

答弁 今年の記録的な暑さを受けて文部科学省でも教室等へのエアコン設置状況を緊急調査し、秋には結果が公表される見通しである。また、7月には国が来年度における対応の意向を示しており大変注目している。仙北市では順次計画して進めて行きたい。

デマンド型タクシーの定刻化を

質問 現在、生保内や角館地域では市民バスが運行されているが、西木、神代、白岩地区ではデマンド型タクシーが市民の足となっている。市民バスは予約なしで定期に運行される一方、デマンド型タクシーは利用者の予約による運行のため、非常に手間がかかると聞く。利便性向上のため、デマンド型タクシーを定刻化することはできないのか。

答弁 デマンド型タクシーは予約手続きが必要で、利用者には負担をかける部分もあるが、市民バスよりも小型なため狭い道幅も通行することが

可能で、その上、停留所も多く設置できるといった利点がある。地域公共交通のニーズは利用者の現状により変化するため、今後、市民との意見交換会や意向調査を経て、定刻運行の試験を行いたい。高齢化の進展で地域公共交通の需要が年々高まっており、利用者ニーズに対応できるよう改善して行きたい。

子どもの医療費負担の軽減を

質問 県の事業により中学校卒業までの医療費助成が実現したが、本市では、所得によ

り上限1000円を負担しなければならぬ。子どもの医療費の完全無償化を求める。

答弁 子どもの医療費の完全無償化については、県内18の市町村で実施している。また、市民の中でも無償化を希望する声が多いことも既に承知している。子育て支援は大変重要な施策であり、他の関連事業との関係も考慮しながら財源確保を検討する。

国保税の負担軽減を

質問 国民健康保険税の滞納額も膨大となり、家計に占める国保税の負担が大きいこと

がわかる。応能負担は当然とは言え、所得割、均等割、平等割を見直し、被保険者の負担軽減につなげるべきと考えるがどうか。

答弁 国民健康保険税の算定は被保険者の負担能力に応じた所得割の他、家族1人あたりに対する均等割、1世帯あたりに対する世帯割で構成されている。低所得者に対しては7割、5割、2割の軽減措置が設けられているが、地方税法改正に伴い毎年見直しを行っている。また、災害や病気、けが等、予期せぬ事由により収入が著しく減少して税の納付が困難になった方々には減免制度で対応している。今後も市民の実情に即した対応を行いたい。

質問 国保税の均等割負担はゼロ歳児から適用されるため、子どもが多い家庭ほど負担が多い。子どもの教育費負担が家計に占める割合も非常に高いことを考慮すると、子どもにかかる均等割額を見直すべきではないのか。

答弁 均等割見直しは国保会計全体に与える影響を精査しながら検討を進める。

(小木田 隆記)



■利便性向上のためにデマンド型タクシーの定刻化を

地場産ミズナラでウイスキー樽製造を。

阿部 則比古 議員

市長

若齢木ミズナラで樽製造の可能性を探る。

ミズナラの宝庫秋田でウイスキー樽造りを

質問 ヨーロッパでは酒樽の木材が枯渇し、ロシアや中国から輸入しているがこれも不足気味であり、現在は北海道からも輸出されている。仙北市はミズナラの宝庫であり、地場産業振興策の一環としてウイスキー樽製造を県に働きかけてはどうか。

答弁 大変すばらしいアイデアである。市内にある豊富なミズナラを使った樽造りを模索する中、(株)ドリムリンクが、若齢木のミズナラでウイスキー樽製造の可能性を探りたいとしている。事業化にはさまざまな課題もあるが、県からの指導も頂きながら支援を行っていききたい。

果樹園芸分野に更なる振興策を。

質問 仙北市の農業構造は水稲偏重型であり、一方で果樹・園芸関係が弱い。農地の集約化等でリタイヤしたマンパワの活躍の場の提供や、物産館の営業に向けて、この分野の更なる開拓が必要ではないか。

答弁 仙北市の農業は農地に占める米の作付が67・8%と依然として園芸関係が弱い。花卉を含む園芸作物を米に代



■豊富なミズナラでウイスキー樽を

わる重要品目と位置付け様々な取り組みを進めている。園芸品目においては、これから収穫が本格化する花卉やシイタケなど年間販売額が一億円を超える品目も複数出てきている。誘致したストロベリーファームが生産する夏イチゴは現在、需要増加に比べハウスを増設を今年度中に完成させる予定である。今後も現場に即した力強い支援を継続していきたい。

JA秋田おばこ巨額損失問題をどう捉える

質問 今回の問題をどのように考えているのか。

答弁 問題となった米の直接販売は、報道で知る限り、その手法、管理、経理等に根深い問題があったと言わざるを得ないと感じている。しかし、JA秋田おばこはこれまで農業関連をはじめ信用事業共済、介護福祉関連など、組合員以外の市民に対してもさまざまな関わりを持っている。一日も早い経営再建を願う。

クニマス未来館の展望は

質問 クニマス未来館の今後の展望について伺う。

答弁 昨年7月にオープンした田沢湖クニマス未来館だが、昨年度の入場者数は25,003人となっており、今年度は8月末において11,553人で推移している。クニマスを通じた自然環境の大きさや、その自然を取り戻すことの難しさを訴え、どうにかして田沢湖にクニマスを還すことが出来ないかを問い続ける施設である。国内はもとより全世界にアピール出来る施設となるよう努力を続ける。

玉川温泉での水素生成を問う

質問 玉川温泉での水素ガス発生実験はどこまで推進するつもりか。

答弁 仙北市では、水素資源が豊富に存在する。水素の積極的な活用方法をしっかりと定めていく必要がある。新地域エネルギービジョンを改正し東北大学・民間企業との連携を進め産業振興につなげる事業として推進していきたい。

(門脇晃幸記)

抱返り溪谷周辺の整備は万全か。

蒼生会 真崎 寿浩 議員

市長

県、市、若松堰土地改良区各管理者が連携して安全対策に努める。

安全な観光地としての抱返り溪谷を

質問 抱返り溪谷には紅葉シーズンのみならず、降雪期間、雪解けの春、緑ふる新緑の頃など、年間を通じて多数の観光客が訪れているため、安全対策は万全に行われるべきであるが、現状と対策を伺う。

答弁 溪谷の地形は非常に急峻であることから、岩盤や斜面からの落石、倒木、土砂流出等が頻繁に発生し、これまでも再三にわたり安全対策のための事業がなされている。

台風や豪雨で落石や土砂流出が予想されるときは、遊歩道を全面通行止めにするなどの事故防止策を細やかに行っている。

質問 施設の点検や柵のかさ上げの必要箇所もあると思うがどう対処するのか。

答弁 注意をしなければいけないところについては、しっかりと改善をしていく。継続した対策を行う必要性を感じている。

質問 年間を通じて多くの来訪者を受け入れているが、体制は現状のままで良いのか。緊急時の連絡先の明示、ま

た、溪谷の魅力を説明する案内表示の多言語化など課題も多い。今後どのように対応するのか。

答弁 国内のみならず雪の降らないアジア地域からの観光客が格段に増加しているため、安全な環境をつくりながら、どのような見せ方や楽しみ方を提供できるのかについて、観光協会や地元の方々と連携し、受け入れ体制のあり方を今一度しっかりと検討する。防災面における連絡体制の整備充実については指摘の通りである。警察、消防、市役所観光課等の連絡体制等を

確認し、万全な安全対策を講じる工夫が必要だと強く認識している。

質問 遊歩道の未整備区間となっている、回顧の滝より奥側の整備について今後どうするのか。

答弁 未整備区間には、崩落等の危険性が高い箇所も数箇所含まれていることから、整備については費用も多額となり、約20億円程度を要するという試算もある。未整備区間の整備は相当に困難な事案と認識せざるを得ない現状である。

質問 秋の紅葉シーズン中、抱返り紅葉まつり実行委員会において、期間中に開設している臨時駐車場の整備については今後どうするのか。

答弁 実行委員会が運用している土地は私有地であり、仮に土地所有者が、他者へ譲渡した場合、用途が変わる可能性もある。駐車場としての安定的に運用するためには、有償譲渡も含めて土地所有者との協議を行うことが賢明ではないかと考えている。

(平岡 裕子 記)



抱返り溪谷 安全確保に向けた整備を



お客様のために抱返り臨時駐車場の整備を

市民会館の設備更新は

蒼生会 田口寿宜 議員

市長

2020年までには最低限度の工事を終わりたい



■設備の更新が待たれる市民会館

市民会館の設備更新について

質問 開館から間もなく38年を迎えるにあたり、設備の老朽化が目立ち始めている。特に、ステージに関する設備の老朽化が著しいと感じる。

文化の殿堂・拠点という事を踏まえると、早急な更新が必要と考える。もしもの事が起こる前に、最大限の対策を講ずるべきではないか。

答弁（教育長） 設備更新の必要性は、十分に認識をしている。舞台吊り物のワイヤーについては、保守管理基準を満たしているものの、構造上の特性として、消耗品的要

素も併せ持つっており、更新の必要性が認められている。舞台の安全管理上、吊り物の更新を最優先とし、電気設備・舞台照明等、順次計画していく。開館40周年にあたる2020年までには、最低限度の工事を終えたい。

CS（コミュニティースクール）について

質問 児童・生徒数の減少により、様々な面を考慮して学校の在り方が論じられているが、やはり、地域になくならない場所が学校であると強く感じる。CSを導入し、学校と地域の更なる結び付きを強め、学校を地域の拠点の一つと捉えるべきではないか。

答弁（教育長） 社会に開かれた教育課程の推進に向け、地域学校協働活動の市全体への拡大を最優先に検討している。この活動の拡大と共に、近隣市町の動向も注視しながら、コミュニティースクールの導入について、引き続き検討を進めている現状である。

DMOについて

質問 本市の最大の強みである観光資源を活かす上でも、田沢湖・角館観光協会を土台とした地域内DMOを組織するべきではないか。

答弁 秋田県のインバウンド対策をリードし、積極的な事業展開をする財源を確保する上でも、田沢湖・角館観光協会に地域内DMOの組織化に取り組んで欲しい思いを伝えている。市としても、基幹産業の振興を行う為に、徹底した支援を行いたい。

SDGsについて

質問 市民の幸せを創り出す事こそが、持続可能な開発であると考えられる。SDGsのもとに、どのように幸せを創り出していくのか。

答弁 市民の誰一人取り残さないまちづくりの実現に向け、経済・社会・環境の3側面の取り組みの相乗効果が期待できる施策を実施していきたい。SDGsをツールとし、仙北市の現状と課題にしっかりと向き合い、市民と行政が協働し、第2次総合計画の事業を着実に進めていく必要がある。

（高久昭二記）

用語解説

・CS（コミュニティースクール 学校運営協議会制度）

学校と地域住民等が力を合わせて学校運営に取り組むことが可能となる仕組み。学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことができるとされている。

・DMO（ディステイネーション・マネージメント／マーケティング・オーガニゼーション）

地域の観光地により多くの人やお金を呼び込むための組織。飲食、宿泊、交通等の民間業者、行政機関等と連携し、意見調整や観光振興のための調査や観光プランの開発などに取り組む。

・SDGs（エスディージーズ 持続可能な開発目標）

SDGsは2015年9月の国連サミットで採択されたもので、加盟193か国が2016年～2030年の15年間で達成するために掲げた目標のこと。脱貧困や教育、男女平等、エネルギー、経済・産業発展やまちづくりなど多岐にわたる。日本政府では、これら目標への取り組みとして、持続可能な都市・地域づくりを目指す自治体を選定し、予算措置などを行いサポートする事業が始まっており、本年6月に仙北市も選定されている。

総務文教常任委員会

総合給食センター建設費に議論集中

9月定例会の総務文教常任委員会では、平成30年度補正予算や平成29年度の決算について審査されました。補正予算では主に総合給食センターの建設について議論されております。

主な内容	公共施設等マネジメント事業費	1,268万円
	旧市立角館総合病院の解体実施設計及びアスベスト・土壌調査費用	
	農業IoT・水素利用による産業創造事業費	1,250万円
	国の地方創生推進交付金を活用した3カ年の事業。農業分野でのIoT活用や東北大と連携した玉川温泉での水素生成等を行う。	
	危険空き家対策費	105万円
	危険空き家解体への補助。2件分の追加。	
	「ミュージカル浜田謹吾」児童生徒観劇事業費	165万円
	角館にゆかりのある大村藩の浜田謹吾少年を題材とした、劇団わらび座によるミュージカルを市内の小中学生に観覧させる。戊辰戦争150年を記念した事業。	
	総合給食センター建設事業費	1億2,890万円
	総合給食センターに関する平成30年度分の建設費。建設費総額は約12億7,900万円の予定。	

ここが知りたい 議論のポイント

平成30年度補正予算主な質疑

質問 総合給食センターは西木地区の工業団地に建設するとしているが、今後の各学校の適正配置等も考慮されているのか。

答弁 市内小中学校の適正配置も考慮し検討した結果である。各学校に対し公平に配達できる位置として西木工業団地とした。用地費も不要という利点もある。

質問 建物屋根にはルーフヒーターを設置し融雪するとしているが果たして効果はあるのか。

答弁 設計事務所によると、ルーフヒーター設置による効果は、豪雪地帯における他の施設でも実績があり効果的であると考ええる。

質問 基本設計時より今回の実施設計によって建設費の額が増になったのはなぜか。

答弁 実施設計では構造計算等も行われその結果増額となった。当然様々な箇所の見直し等も行った中で予算圧縮の努力はしたが、当初よりも4,000万円程度の増額となっている。

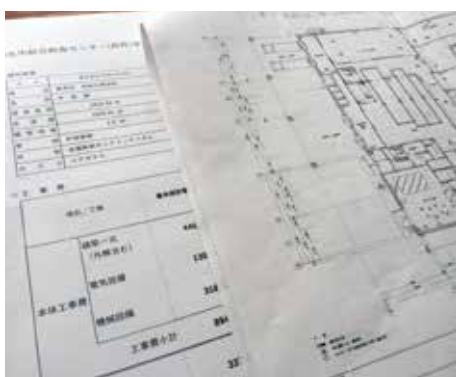
質問 実施設計は現段階で完了して

いるのか。(この委員会の審査日は9月14日)

答弁 大部分は完成しているが、正式には9月20日に設計が完了し納品となる。

質問 希なケースではあったが、先のクニマス未来館における設計違算問題は訴訟に発展している。あのような事態を未然に防ぐためにも、本案件については当然に、設計図書が納品された上で、間違いがないかなどを教育委員会内で慎重に確認するべきではないのか。未だに設計が完了しておらず、その確認作業もなされていないとすれば、建設予算計上は時期尚早ではないのか。

答弁 実施設計は未だ完了してはいないが、関係部署とも相談の上予算計上した。総合給食センターのオープンは平成32年4月を予定しているため、それに間に合うように今回予算案を上程している。



■実施設計完了後、確認作業を行った上での予算計上を

市民福祉常任委員会

角館児童クラブ 児童の安全確保のためマイクロバスでの移動へ

9月定例会の市民福祉常任委員会が開催され、一般会計補正予算などが審査されました。一般会計補正予算では、放課後児童クラブ（角館児童クラブ）の徒歩移動を、安全確保のためマイクロバスでの移動とすることとなり、それに関連しバスのリース料や運転手の賃金等が審査されました。

主な内容	仙北市印鑑条例の一部を改正する条例制定		印鑑証明のコンビニ発行システム導入に伴う条例改正
	放課後児童対策事業費	73万6千円	角館児童クラブの徒歩移動を安全確保のためバス移動へ。バスのリース料や運転手賃金。
	健康管理センター管理運営費	774万6千円	屋根の雪止め、塗装等に要する費用。
	環境保全センター費	396万5千円	地下水揚水ポンプ、冷却ポンプ等の修繕費。
	幼稚園費	38万円	田沢幼稚園の軒先修繕費。

ごみ処理場の広域運営化
質問 処理場の広域化で今後のごみ料金はどのようなのか、また、広域運営による経費のかかり増しはどの程度か。
答弁 ごみ料金は今までどおりである。測量機システムから出る領収書等の名前を変える部分で多少の経費はかかるが、各施設の維持管理は各市町で賄うことになっており、基本的には今の予算が広域に移るイメージである。

角館児童クラブのバス送迎
質問 角館児童クラブのマイクロバス運行は来年4月以降どうするのか、また、現在の登録児童数は何名か。
答弁 来年4月以降もバスのリースをお願いしたい。角館児童クラブの登録数は89名で、通常低学年が72名、4年生以上は17名である。

ここが知りたい
 議論のポイント
 平成30年度補正予算 主な質疑

「平成29年度病院事業会計決算」を認定 医師不足解消と安定経営を求める

平成29年度病院事業会計の決算審査が行われ、市民福祉常任委員会では病院の持続的安定経営のため医師・看護師の確保や患者への接遇、資金不足の解消などについて議論されました。

平成29年度病院事業会計 委員会質疑

質問 病院事業管理者が医師招聘で努力はしているが、成果が上がっていないのでは。

答弁 病院事業管理者は、秋田県の部長であった実績があり、県とつながりのある自治医科大からも医師を派遣して頂いている。医師3名と、義務年限を終了した方2名で、一つの自治体に自治医科大出身者が5名もいるのは珍しい。

質問 患者数も減り、経営状況も厳しくなるが、今後どのような形で進めるのか。

答弁 前の医療計画作成時の議論を、更に深める必要がある。二つの病院という議論もあるが、観光等も含め、他への影響を想定した検討も必要である。

質問 角館病院の意見箱は続けているのか。患者への対応をもう少し親切にという声もあるが。

答弁 意見箱は、各病棟と外来、複数個所に設置し、接遇向上委員会を設置し、常に職員に指導している。

平成29年度 病院事業会計決算 (単位：千円)

	角館病院	田沢湖病院	医療局	合計
医業収益	3,224,188	625,067	0	3,849,255
医業費用	4,036,510	885,611	914	4,923,035
医業利益	-812,322	-260,544	-914	-1,073,780
医業外収益	539,396	263,501	64,496	867,393
医業外費用	134,838	38,441	67	173,346
経常利益	-407,764	-35,484	63,515	-379,733



■厳しい経営の市立病院
 医師確保や接遇改善で安定経営を

産業建設常任委員会

AKITAスノーリゾート推進事業 仙台空港から田沢湖スキー場への臨時アクセス整備へ

9月定例会の産業建設常任委員会では主に一般会計補正予算や平成29年度水道・温泉事業決算を始めとした各決算が審査されました。また、市道の拡幅を求める請願なども審査され採択しています。

主な内容	雇用創出助成金	350万円	仙北市における新規雇用に対する助成金の追加
	農地集積加速化基盤整備事業	2,412万円	漏野十二峠地区の高度経営体集積促進費の県補助金の追加（平成31年度完了予定）
	農林業者研修集会施設管理運営費	210万円	中川集落センター駐車場舗装工事費
	局所防災事業費	640万円	八割塩手沢地区の山腹崩落防止工事費
	AKITA スノーリゾート推進事業費	542万円	田沢湖スキー場を中心としたエリアの冬期誘客促進関係費
	道路維持補修費	265万円	市道の補修経費等の追加
	冬期交通対策費	1,500万円	昨冬の豪雪により4月以降の排雪作業が増大したことによる経費等の追加
	公共土木施設災害復旧事業費	1,079万円	本年度7月までの大雨による災害復旧関係費の追加（10箇所）

「市道羽根ヶ台線及び神代岡崎線を二車線規格に改良を求める請願」を採択

【請願理由】 羽根ヶ台線は小松地区の小学生、中学生が最も利用する通学路線であるが、道幅が狭く危険である。また、岡崎線は一部二車線に拡幅されているが、現在整備中の神代中央線の取り付けまでの500mが未整備であることから、羽根ヶ台線と岡崎線の未整備区間を二車線規格に改良をお願いしたい。

【結果】 現在整備中の神代中央線の完成後に工事内容や工事期間等について具体的にすべきとして継続審査を求める意見もあったが、請願者には、神代中央線の完成を最優先にして、その次の整備であることを確認し、通勤通学道路であり、神代中央線の取り付け道路としての調査も必要であることを考慮し採択とした。

平成29年度 特別・企業会計決算 (単位：千円)

会計別	事業名	歳入 (収入)	歳出 (支出)	歳入歳出 差引額	収入 未済額
特別会計	下水道事業	753,460	752,819	641	7,263
	集落排水事業	376,821	376,734	87	1,471
	浄化槽事業	92,965	92,909	56	429
企業会計	温泉事業	58,293	59,239	-946	13,211
	水道事業	592,399	569,205	23,194	24,052

ここが知りたい 議論のポイント

平成30年度補正予算主な質疑

質問 補正予算は、緊急性を要する事業や当初予算の追加等であるはずが、最近では当初予算に計上されなかった事業を補正予算で施行しようとする傾向が見られる。特に中川集落センターの舗装工事は当初予算で計上すべきであり、補正予算で何でも出来てしまうことは、本来のあるべき姿ではないのではないか。

答弁 中川集落センターの舗装工事は4年程前からの懸案であったが、一部を企業に駐車場として貸付中であつた

こともあり施行出来ずにいた。この度、駐車場契約が満了となることから、冬期除雪前に舗装するため今回の補正予算で計上した。

質問 今回の補正予算ですべての市道の補修ができるのか。過去に実施した道路の劣化検知車での検査結果などを活用して、早めの対策をしていかないと一気に道路が傷んで補修が追いつかなくなるのではないのか。

答弁 道路維持補修費の当初予算の執行が9割を超えている。今回の補正予算ではすべての市道の補修はできない。雪解け後の傷んだ道路のパッチングなどは12月の補正予算で対応するしかない状況にある。市長はインフラに力を入れていくとの方針も示しているの

いきいき広場

神代若鮎

スポーツ少年団

団員 16名

3年生4人

4年生5人

5年生7人

監督 清水和広さん

父母会長 安藤郁弥さん

コーチ 大石柊斗さん

グラウンドでボールを追いかける神代小学校の学童野球新人チームを訪問した。

「練習する日はいつですか。」「火・水・金曜日です。」「練習始まりの時間は何時ですか。」「午後4時からです。」「私の質問に、歯切れよく応える球児たち。

野球やる子が少なくなってきたことは、親も少なくなっているということか。父兄は仕事が終わってからグラウンドに来るので、その間、指導に当たってくれる人をお願いしているという。前は、会社の社長をやっていた

る人もいて融通が利いていたが、今はなかなかそうもいかないのが実情とのこと。

「神代は子どもの親が監督を務めています。何よりも礼儀を大切に指導したいと思います。まずは挨拶がしっかりできるように頑張ってほしい。」と清水監督の話。

陽が少し沈みかけた頃、グラウンド上に散らばっていた球児たちが、一斉に立ち止まり、帽子をとって「お願いします」と一礼すると、そこに登場したのは、コーチを務めるこの春高校を卒業したばかりの元球児。一日の仕事を終え、後輩の前に立つお兄さんのはつらつとした動きに子どもたちは更に快活さを増す。

「照明を補充してほしい。」「冬場は、スキーなどで野球から離れることになるので、キャッチボールができる大きな施設がほしい。」「雨天時対応として雨風をしのげる施設があれば」と父母会の安藤会長さん。近くにある神代体育館は空きがなくて、割

り込むのは大変であるとのこと。

学校行事や放課後の疲れを見せず、好きな野球で大きな声を出し、仲間を励まし気づかせ合う姿に元気をいただいた。

(平岡裕子記)



■練習に励む神代若鮎の子ども達

編集後記

台風24号、25号と立て続けに、毎週末に日本列島を襲い吹き抜けていきました。大規模停電や突風、収穫前の果樹や稲作、畑作物等の被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。

秋田県の伝統芸能の祭典

控室

環境の変化が人を変える

いつから稲刈り始める？
今年の収量はどうかだろうか？

こんな話題が飛び交う控室。定刻（午前10時）が近づき各自議場へ向かう。その姿がやや緊張気味に思えるのは気のせいかな？

9月より運用の、場内に設置された新しいライブカメラシステム。仙北市議会のインターネットライブ映像配信は

これまでよりも格段に性能がアップした。

インターネット配信により、議会内での発言が一瞬で拡散する恐れがあり、その内容によっては発言者のモラルを問われ、又、それ以上に注意すべきは第三者を傷つけてしまう恐れもあるということ。

新しいライブカメラの設置という場内の環境の変化は、私も発言者に、より一層質の向上を求め変わっていくことを望んでいる。そういうメッセージを感じる。

(門脇晃幸記)

当局の新年度当初予算に少しでも反映されれば一歩前進であります。

議会だよりの紙面が限られており、皆様に予算常任委員会での審査内容をうまく伝えられるかが、今号のキーポイントです。

読者の皆様よろしくお願ひします。

(熊谷一夫記)